

二大自慢新聞

出雲市立平田中学校
2年2組
浅井 ひらり
2023年8月3日

平田を代表する観光地である木綿街道と「雲州平田駅」。2ヶ所ともたくさんの人々が集い、平田を賑わさせてくれています。今回、そんな平田の二大観光地の歴史から知つていろと行くことをもう少し楽めます。豆知識まで紹介していきます。

~1日800人の人が利用する~ 雲州平田駅の魅力

100年以上

一畠電車の歴史

一畠電車は一九四二年に創立した会社で二〇二二年に創立110周年を迎えました。しかし、その間に電車ではなく蒸気機関車が走っており、一九二七年に電車になりました。

今は幻の線路!



運輸部運輸課兼運輸課長代理兼
雲州平田駅駅長 兼 川跡駅駅長
セ落部さんへインタビュー!!

Qなぜ「雲州平田駅」という名前なんですか。

A雲州平田駅の「雲州」というのはたとえば、石見の地域で昔「石見」とよばれていたように、昔出雲の地域は「雲州」とよばれていてそれに「平田」という名前をつけた「雲州平田駅」という名前になりました。

Q一日何人くらいの人利用しますか。

A多さとくには七百人から八百人くらいの人が利用しています。朝七時から八時にかけての通勤・通学の時間帯が一番人多いであります。

Q雲州平田駅の自慢は何ですか。

A一畠電車の駅は二十六個あります。その中で一番規模が大きいことです。また、約百年前につくられた古い電車が今は利用できません。

「一番古い電車の
魅力」による
「昔の電車は木造！」

今の電車は鉄でできていますが昔の電車は半分木造でできました。

木綿街道は 城下町!?



木綿街道の町並み

今、編集後記

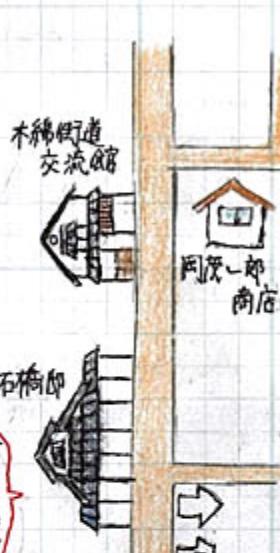
木綿街道の歴史

1500年代(戦国時代)平田佐渡守による町割り(都市計画)が行われ現在の平田の原形ができました。その名残として船川、湯谷川、後川を利用した城下町の風貌がそのまま形態になっています。これは、戦国時代を意識した町割りにになっていることがあります。

他にもこの時代の名残はいくつもあり防衛用の鈎型路や袋小町を意味する袋町という町名なども残っています。

木綿街道の歴史

1300年、近江商人という商人たちによって開拓がなされました。それからほどなく他の商人の町として栄えてきました。江戸時代には物資の集散地として人々が大勢いました。特に「雲州平田木綿」は大阪や京都で声値を得て木綿業を中心とした商人たちの文化が増えてきました。明治時代には養蚕も行われるようになりました。明治時代末期には工業都市として栄えました。



木綿街道の昔と今

700年以上の歴史がある

有形文化財が2つ!?

木綿街道には国登録有形文化財があります。

○有形文化財とは?
→ 我が国にとって歴史上、芸術上、学術上価値の高いもの

出典 (文化庁HP 国宝・有形文化財)



○酒井田本店 (2017年に登録)



○酒井田本店 (2017年に登録)
有形文化財



今回、「雲州平田駅」と「木綿街道」について調べたり、取材をして、どちらも昔から愛されてきた場所であり、平田を賑わせてくれているのだとかなりました。そして100年以上前のものが今に残されているのは平田の地域の方々のおかげだなと思いました。私はこの先もこの歴史あるものが残りたくさん的人に知ってほしいです。